



● 第39回「とやま賞」…………3

● 「夢の卵」育成事業………………………6

● きらめき未来塾 ………………8

● 子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業 …………9

● 高校生とことん科学セミナー、高等教育振興事業、賛助会員の紹介 …10



小西いずみ氏東京大学大学院



両親ともに働いていたため、私と弟は幼少期によく上市町にある母の実家で過ごした。小学校の夏休みの時期な好は一、二週間滞在することもあった。 とお、ときに父が、車で約30分かけて 母が、ときに父が、車で約30分かけて 上市まで私と弟を連れていった。弟は どうだったのか知らないが、そして今 思うと何が理由だったのかも忘れてし 思ったが、私は上市の祖父母の家に滞 在するのが何よりの楽しみであった。 祖父母はともに大正生まれで、すで

> に故人である。祖父は養豚を主とした 農業のかたわら町会議員を務め、祖母 は祖父とともに農業をしながら家事を していた。祖父は私たちが訪れるとお だやかな笑顔で「おお、来たか」と声 をかけてくれたが、積極的に面倒をみ るわけでもなく、私たちの世話をする のはもっぱら祖母であった。祖母は今 の深に嫁いだ。ずっと中新川郡域で 父の家に嫁いだ。ずっと中新川郡域で をことになる。祖母が私たちに使う定 をことになる。祖母が私たちに使うたことになる。祖母が私たちに使うた

やんばかったぜ。だいそどだよ。あやまちしられんな。

「過ち」だが、標準語とは意味が少し「過ち」だが、標準語とは意味が少しが危なっかしい遊びをしているのを見さに祖母は使った。小学館『日本方言をに祖母は使った。小学館『日本方言ると、怪我をしないようにと注意すると、怪我の意の「あやまち」は東北ると、怪我の意の「あやまち」は東北ると、怪我の意の「あやまち」は東北ると、怪我の意の「あやまち」は東北ると、怪我の意の「あやまち」は東北ると、怪我の意の「あやまち」という名詞自体は動詞「あやまち」とともに上代の体は動詞「あやまち」とともに上代の体は動詞「あやまち」とともに上代の体は動詞「あやまち」は漢字を交えて記せば

敗」の意味である。何かをしそこなって、 その結果、怪我をするという因果関係にもとづいて意味が変化したのだろう。 に祖母がよく言ったことばである。「そんなことしたら大変だよ」ぐらいの意味で、「だいそど」は「大騒動」に由来するのだろう。漢語「騒動」は平安時代には主に漢文体の文章で使われており、現在のいくつかの方言でも「騒が(大)」を付けた「だいそ(ー)ど(ー)」は『日本方言大辞典』に記載されておらず、あまり地理的広がりを持つ語ではなさそうである。

「やんばかったぜ」は、何かいいことがあったときに「よかったね」と声をかけるときのことばである。過去でなく今のことを言うのであれば「やんない」となり、「いい塩梅」に由来すると思われる。『日本方言大辞典』によると「いい塩梅」を縮めて「やんばい」という語を成立させた地域は新潟に重、山陰と点在する。これらの方言間に交流があったのではなく、複数の地域で独自に起こったのであろう。また、元が「いい塩梅」であれば過去のことを言うなら「やんばいだった」「やんばいやった」などのようになるはずのある。実際に富山県内でもそのようである。実際に富山県内でもそのようである。実際に富山県内でもそのようである。実際に富山県内でもそのよう

川では「やんばい」が「い」で終わることから、「白い」「白かった」など形容詞と同じように「やんばい」「やんばかった」と変化したのだと思われる。ばかった」と変化したのだと思われる。 私は現在、富山県のことばを含めた日本語の方言の研究をしているが、今思えば、その出発点は祖母のことばであった。 大学の卒業論文では富山県内の地域差を扱ったが、それも祖母のことばの記憶から着想したものだった。祖母が亡くなってすでに三〇年た。 祖母が亡くなってすでに三〇年たが、祖母と祖母のことばから受けた恩恵に報いる唯一の術である。

プロフィール

小西 いずみ (こにし いずみ)

人文社会系研究科 准東京大学大学院

973年 富山市生まれ。

講師・准教授を経て現職。博士(文学)。東京都立大学防、東北大学大学院、東北大学大学院修了。富山県立富山東高校、東京都立大学卒業、富山県立富山東高校、東京都立大学卒業、

2017年 第34回とやま賞受賞(井上優氏と共同)

2014年

日本語学会論文賞受賞

れる個人または団体です。 あげ、かつ将来の活躍が期待さ ツの分野において顕著な業績を 科学技術、文化・芸術及びスポー

令和4年5月23日(月)

受賞記念講



和5年に創設されました。 の育成に資する目的をもって昭

または県内在住者で、学術研究、

受賞対象者は、富山県出身者

富山県の将来を担う有為な人材

富山県の置県百年を記念し、

とやま賞

とは…

石塚選考委員長による選考経過報告



目録贈呈 新田知事より賞状・

ションしていただきました。

やこれまでの経緯についてプレゼンテー

ました。また、各受賞者に、

受賞の喜び

者5名に賞状及び奨励金目録が手渡され

贈呈式では、







受賞記念講演





団の

「とやま賞」贈呈式は、 高志会館にて執り行われまし 新田富山県知事から受賞 去る5

月23日に、

第 39 回

免疫学フロンティア研究センター

特任准教授

大阪大学世界最先端研究機構

学術研究部門 医薬分野(整形外科、運動器病学)

箭原 康人 氏

社会づくりへの挑戦 誰もが安定した運動器を維持できる

ました。 動器を維持できる社会づくり" に貢献し ていきたいという気持ちを新たにいたし ことを励みにして、 "誰もが安定した運 床および基礎研究活動を評価いただいた で私が行ってきた運動器疾患に対する臨 頂戴し、感激にたえません。富山県ひと 皆様に心より御礼申し上げます。これま つくり財団ならびに選考委員、 この度は、栄誉ある第39回とやま賞を 関係者の

謝申し上げます。憧れの医学部に入学し の担任、学年主任の先生方には心から感 疾患に興味を持つようになったのだと思 を謳歌したこともあり、必然的に運動器 いう怪我と隣り合わせの環境で遅い青春 ごす生活を送っておりました。 スキーと 供のころから大好きだった競技スキーに たわけですが、学生時代は勉学よりも子 最大限バックアップしていただいた当時 わっておりませんでしたが、そんな私を は医学部に入学できるほどの学力も備 学医学部に入学いたしました。高校時代 医師を志し、平成11年に富山医科薬科大 私は、富山県立福野高等学校在学中に 年間の三分の一はスキー場で過 卒業後は、 富山大学整形外科に

入局し、多くの先輩方から運動器疾患の入局し、多くの先輩方から運動器疾患治さ、現在は、脊椎・脊椎病外科専門医した。現在は、脊椎・脊椎病外科専門医として日常診療に携わる傍ら、骨軟骨代において、経年的に衰えゆく運動器(神はいて、経年的に衰えゆく運動器(神において、経年的に衰えゆく運動器(神いないうことは最重要課題の一つとなります。現在私の行っている臨床、基礎の進歩の一動になること切に願っております。現在私の行っている臨床、基礎の進歩の一助になること切に願っております。

支えてくれる家族に感謝いたします。 主が学石井優教授に心から御礼を申し ル上げます。また私の挑戦をいつも応援し ただいた富山大学名誉教授木村友厚先生、同 に対きを提供いただきました大阪大学免疫細 でを提供いただきました大阪大学免疫細 がでである。 を提供いただきました大阪大学免疫細 がでいた高山大学名誉教授木村友厚先生、同 にがます。また私の挑戦をいつも応援し とだいた富山大学名誉教授木村友厚先生、同 にがます。また私の挑戦をいつも応援し とだいた富山大学名誉教授木村友厚先生、同 にがいた高山大学名誉教授木村友厚先生、同 にがいた高山大学名誉教授木村友厚先生、同 にがいた。 にがいたが、 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいたが、 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいた。 にがいたが、 にがいたが、 にがいたが、 にがいたが、 にがいたが、 にがいが、 にがい

学術研究部門理工分野(土壌生態学)

国立研究開発法人森林研究·整備機構 主任研究員



藤井 一至 氏

機構の解明と土壌再生技術への応用植物・微生物による土壌発達・劣化

ナダ極北の永久凍土地帯からインドネシただき、有難く感じております。私はカこのたび、栄誉ある「とやま賞」をい

妥協すまいと思い、アウトドア派に転身を調査し、食糧生産、環境問題の改善に富山で育った18年間、私はインドア派でした。高校時代の将棋のライバルと同じ大学を選び、同じチームで戦う姿に県じ大学を選び、同じチームで戦う姿に県じ大学を選び、同じチームで戦う姿に県でした。高校時代の将棋の時相の発信とでした。高校時代の将棋の時代の将棋の場へが表記を進めています。ただし、将棋の戦績はどこまでも中途半端でした。土の研究では、大学を選び、アウトドア派に転身といい、アウトドア派に転身を調査している。

インドネシアでは熱帯雨林の耕地化後の数年間で畑が放棄され、新たな熱帯雨林が切り拓かれてしまうという問題を目の当たりにし、原因が土壌酸性化にあることを解明しました。一方で酸性土壌に高応した樹木、微生物の酵素・有機酸の新機能によって土壌が早く回復し、劣化土壌の修復が可能となることを実証してきました。さらに、土が極度に劣化したきました。さらに、土が極度に劣化したきました。さらに、土が極度に劣化したきました。さらに、土が極度に劣化したきました。さらに、土が極度に劣化したもました。さらに、土が極度に劣化したもました。さらに、土が極度に劣化した。さらに、土が極度に劣化した。

世界中の土を見た後に、富山では上市世界中の土を見た後に、富山では上市世界中の土を見た後のナゾ』、新聞の連載「土のふしぎ」知らなかったのかを思い知りました。二田の新書『大地の五億年』、『土 地球最田の新書『大地の五億年』、『土 地球最田の新書『大地の五億年』、『山では上市世界中の土を見た後に、富山では上市世界中の土を見た後に、富山では上市

たか」よりも「これから何をなすか」にしれませんが、若者の価値は「何をなし賞はこれまでの実績に対する評価かも

思います。 みにスコップを持つ手に力をこめたいとあると思っております。温かい応援を励

学術研究部門 | 人文社会分野(文学、アメリカ文学)

富山大学教養教育院 准教授



しました。

水野真理子 氏

および富山の文化・文学の観点から翁久允研究 ― 日系アメリカ文学

感謝申し上げます。

一のでは、名誉ある「とやま賞」を頂別をのでは、私をがまし、すえてくださった方々に心よりでくり財団ならびに関係者の皆様、私を載し、誠に光栄に存じます。富山県ひとしての度は、名誉ある「とやま賞」を頂

私が翁久允について研究を開始したの、富山大学大学院修士課程を終えた後は、富山大学大学院修士課程を終えた後に興味があり、学部、修士課程ともにアメリカ文学を専攻しました。しかし、真の研究者を目指すのであれば、より独創の研究者を目指すのであれば、より独創の研究者を目指すのであれば、より独創の研究が必要だと感じ、私独自の研究の研究者を目指すのであれば、より独創して、日系アメリカ文学に関心が向いたところ、偶然にも一世世代の中心的な作ところ、偶然にも一世世代の中心的な作ところ、偶然にも一世世代の中心的な行とのであることを知り、こうして領を持ちいる。

スモポリタン」と呼称)の思想です。特移民地文芸論と「世界人」(のちに「コ翁の文学活動において重要なものは、

ました。 発行し、 そして、 尊重した上で、世界で活躍できる人物の なり、また同時に私の研究姿勢における 故郷を理解することを第一としました。 概念を得て、世界を知るために、自らの ことを言います。翁はこの「世界人」の 身と他者の民族的、文化的特徴を堅持し などがありました。「世界人」とは、自 は移民地ならではの苦悩、淋しさ、日本 米経験からこの思想を生み出し、そこに に後者は、翁の後半生を生きる指針とも 人排斥、アイデンティティをめぐる葛藤 道標ともなりました。翁は、約18年の在 帰国後には郷土誌『高志人』を 富山の文化、文学の発展に努め

信していきたいと考えております。信していきたいと考えております。。
の文学活動の詳細と意義について今後もの文学活動の詳細と意義について今後もの文学活動の詳細と意義について今後もの文学活動の詳細と意義について今後もが究を進展させ、富山の皆様に、ますます。第の生き方と同様に、ますのでを進展させ、富山の皆様に、ますのでを進展させ、富山の皆様に、ますのでを進展させ、富山の皆様に、ますのであるが、国際的な場において、また国家



環境分析化学

国立研究開発法人産業技術総合研究所 研究グループ長



佐知 氏

ひとづくり財団ならびに関係者の皆様に 学物質研究手法開発と国際標準規格化 ペルフルオロアルキル化合物等の有害化 この度は、栄えある「とやま賞」を賜 誠にありがとうございます。富山県

心より御礼申し上げます。

授のご指導や、 沢大学大学院に進学し、 賞受賞内容でもある、ペルおよびポリフ む塩素系有機化合物の他、今回のとやま きました。博士前期課程修了後は、 たりする研究の面白さに触れることもで 定しない結果から新たな気づきを得られ 者としての心構えについてご指導頂きま 成果を社会に発信する重要性など、研究 実験方法や研究の進め方以外にも、研究 教授の元、大気中ダイオキシン類の測定 びたいと考え、横浜国立大学の浦野紘平 ました。卒業後は、環境問題について学 高等学校を卒業するまで、 ルオロアルキル化合物(PFAS)に関す 技術総合研究所で、ダイオキシン類を含 た結果、想定した結果が得られたり、想 した。また、計画し仮説を立てて実験し 方法開発に取り組みました。在学中は、 る研究をスタートしました。在職中に金 私は、富山市に生まれ、富山県立富山 信義氏、KANNAN Kurunthachalam教 国内外の研究者にもご指 指宿堯嗣氏、 富山県で育ち 産業 Щ

> 行することができました。 管理試験を経て、 開発するため、11か国27機関にご協力頂 もがアクセスでき、 む外洋での環境挙動解明研究を行い、博 方法開発や、 導・ご協力を賜りながら、PFASの測定 方法として国際標準規格ISO 21675を発 いた測定方法の妥当性確認のための精度 レーサビリティが担保された測定方法を 士号を取得しました。また、世界中の誰 沿岸域や日本海・極域を含 水試料中のPFAS測定 且つ高い信頼性とト

> > 族

精進してまいります。 安心安全な社会の実現に貢献できるよう、 表することで、化学物質の適切な管理と 学的に公平な研究・調査結果を蓄積・公 測定方法開発や環境動態研究により、科 在もありました。改めて感謝申し上げま す。また、見守り支えてくれた家族の存 者の方々のご指導やご協力によるもので れたのは、ひとえに、先生方や共同研究 またこのような賞を賜る機会を得ら 本受賞を励みに、私は信頼性の高い のように、私がこれまで研究を続

科学技術部門

冨山県立大学工学部機械システム工学科

准 教授 振動音響工学

修 氏

ル 高精度圧力計測技術とスマートマテリア を利用した振動騒音制御技術の開発

賞を賜り、 この度は、 審査員の先生方、 大変栄誉ある第39回とやま ひとづくり

ました。その中では、

正直辛い、

きつ

自動車の騒音低減の研究開発に取り組み きました。大学卒業後は企業で新幹線や

礼を申し上げます。僭越ながら、この場 財団の皆様を始め、 を執らせていただきます。 をお借りして、少し私のことについて筆 多くの方々に厚く御

ちました。このため、隣の県に住んでは 関わりの強い人たちに囲まれた環境で育 ました。 と思い、東北大学の機械系学科へ進学し て、将来は乗り物に関わる仕事がしたい 物への興味関心が強くなりました。 神通川の河原で眺めているうちに、 港には多く出かけ、 といえば専ら富山でした。特に、富山空 おりましたが、幼少期に出かけるところ 自身も魚津市で生まれました。また、 私は、富山県出身の父と母をもち、 ・親戚もほぼ富山県内在住で、富山と 離発着する航空機を そし 乗り 私 親

す。

研究をしていたのがこの時期でした。 を出すことを忘れ、一番楽しく、 昼夜を問わず研究に勤しみました。成果 した。私はこの研究にすっかりハマり、 を減らすための研究が必要とされていま まり好ましくない音として扱われ、 より音が発生します。この音は騒音、 にさらされることになりますが、これに かに存在する車体表面の窪みや突起が風 風を受けることで発生する騒音の研究で の自身の方向性を決めました。それが、 部3年生の時の研究との出会いがその後 る研究をしようと思っていましたが、 その後は、騒音の研究一筋で過ごして 大学入学当初は、 例えば、新幹線が走行する際、 漠然と航空機に関 これ わず つ

> ができました。 文を通じて成果を世界に向けて示すこと 初の思いや姿勢を思い出すことで、 ありました。しかし、 時期もありました。成果が出ない時期も か乗り切ることができ、 研究に出会った当 製品、 特許、 何と 論

富山県内の皆様 今後ともご指導

知識・経験を活用して、 ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げま に精進してまいります。 がより幸せになるための研究や教育活動 これからは、これまで蓄積した技術・

5

回「とやま賞」の候補者推薦募集に

募集について、 以下のように行う予定 (令和5年3月時点)

賞を贈呈する部門

学術研究部門、科学技術部門、文化・芸術部門、 -ツ部門の4部門

者の条件

下記の(1)と(2)の条件をすべて満たすこと

(1) 富山県出身または富山県在住の者

(2) 各部門ですぐれた業績を挙げ、活躍が期待される45歳までの個人または団体 ※<mark>詳しい条件については、当財団HP(https://www.t-hito.or.jp/zaidan/toyamashou/data/boshu.html)を参照</mark>

令和5年10月初旬~令和5年11月中旬

夢の印意成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された故 小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画しました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらうこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16(2004)年度から実施しており、今年で18回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢(=夢の卵)」を書いた作文を募集し、その中から選んだ4名の児童生徒が、各分野の専門家に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、それ以外の秀でた作品を佳作として表彰しています。

小学生の部(応募数584作品)

山里の自然を活かした 水族館の学芸員になりたい

中西 瑠煌斗 さん (黒部市・小学5年)

身近な里山の環境にいる生き物に興味を持ち、魚津水族館に短期 入門しました。飼育している生き物の管理や来館者へ生き物の魅力 を伝えるガイドなどの学芸員業務を体験しました。

活動を通して、魚、クラゲ、サンゴ礁など、今まで興味がなかった生き物や、自分がまだ知らない生き物について知りたいと思いました。生き物のことや、飼育方法、エサのやり方など知らないことがたくさんあったので、これからたくさん学び、いろいろな人に生き物や自然の良さを伝えられる学芸員になれるように頑張りたいです。



バックヤードからのエサやりを体験



来館者への生き物解説を体験



パトロールカーに試乗しました

指紋鑑定を体験しました

科学捜査を使って犯罪を 解決できる警察官になりたい

水野 紗彩 さん (富山市・小学6年)

わたしたちの生活の安全を強い使命感をもって守っている警察官 に魅力を感じ、富山県警察本部に短期入門しました。

犯罪解決の要となる科学捜査や鑑識捜査を体験しました。

(体験記) 一生懸命業務に取り組む警察官の方々の姿勢や、私たちの生活を守るための様々な工夫がなされていることがわかりました。夢をかなえるために、今後は学習や体力つくりに今以上に取り組みたいと思います。



- 医師
- 2 学者・研究者
- 2 保育士
- ₫ サッカー選手
- 6 薬剤師



<令和4年度の入賞者数>

小学生の部 優秀賞(短期入門)2名 佳作 12名 中学生の部 優秀賞(短期入門)2名 佳作 16名



令和4年度 夢の卵表彰式

中 学 生 の 部 (応募数857作品)

困っている人を支援できる 社会福祉士になりたい

成安 志真 さん (射水市・中学1年)

日常生活を送ることが困難な人たちの生活を支えるために社会福祉士になりたいと思い、富山国際大学とフォーレスト八尾会おわらの里に短期入門しました。

大学の先生や福祉を学ぶ学生の方、施設の方との交流を通して、 福祉の意義ややりがいを学びました。

(体験記) 「福祉は人なり。」という言葉が印象に残っています。 今回の短期入門で関わった皆さんが自信に満ち溢れた 表情で楽しく教えたり、学んだり、実践されていたことも印象 的でした。社会福祉士として障がいを持っている境遇の子ども の支援を行うために、しっかり学び、前に進んでいきたいです。



福祉を学ぶ大学生との懇談



施設利用者の方との作業体験



実際の展示からポイントを学ぶ

昆虫の展示コーナーを制作し、学芸員の方に解説

昆虫の生態とその大切さを 伝えられる学芸員になりたい

森山 泰成 さん (富山市・中学2年)

生態系を支える昆虫の大切さを伝える学芸員になりたいと、富山市科学博物館に短期入門しました。

学芸員の姿勢を学んだり、実際に昆虫の展示コーナーを制作したりしました。

学芸員の方が伝えたいこととして「昆虫は人間が生きていくために必要不可欠な存在である。」などの言葉がありました。僕も昆虫が好きですが、知識がまだまだ少ないとわかりました。もっと昆虫のことを学び、その大切さを伝えられる学芸員になるため頑張りたいと思います。

* SSSEE

子どもたちの発想力や創造力・ユーモアのセンスなど多様な可能性を引き出すため、各分野で活躍されている方を講師にお招きし、夏休み期間中に3つの道場を開催しました。

思考道場 ゲーム感覚で数学的な考え方を磨き、柔らかい思考力・発想力を育てる

講師: 秋山 仁先生(東京理科大学 栄誉教授) ※特別授業 西尾先生、窪田先生、小澤先生、小里先生 神田先生(県内小学校教員5名)

様々な操作活動や話し合い活動を通してみんなで協力しながら、解決に向けて取り組み、"算数の楽しさや奥深さ"を体感しました。 今年は3年ぶりとなる「秋山 仁 先生 特別授業」を開催し、算数を使ってうそを見抜くマジックなど、算数の世界を味わいました。

【7/26】秋山 仁先生 特別授業

【8/5】「すごろくドボン」「ドットでお絵かき」「ぴったんこ カンカン」

【8/12】「数と文字で暗号を解き明かせ!」「dLますの不思議」

【8/26】「折って切って開くと…」「仲間集めゲームに挑戦」



秋山 仁先生 特別授業「今日からあなたは算数マジシャン」





数と数字で暗号を解き明かせ!

dLますの不思議

オ、笑い道場、落語を学び、ユーモアセンスと表現力を育てる



先生から所作指導





お笑い大会 集合写真

講師:安野家 仁楽斎さん(社会人落語家、フリーアナウンサー)

本物の落語を味わい、扇子の使い方や落語を話すときの視線の配り方、しぐさ等を学びました。また、実際に高座に上がって自己紹介したり落語のオチを練習したりしました。

お笑い大会では会場に集まった家族の皆さんに、小噺や謎かけを 披露しました。

【8/3】落語を勉強しよう

【8/10】自分を表現しよう

【8/17】おけいこの成果を確認しよう

【8/21】お笑い大会(発表会)



右脳活用道場。直感的なイメージ、柔軟な発想力、創造力を形にする表現力を育てる

講師:森 みちこ さん (漫画家) アシスタント: 大野 賀世 さん

オリジナルの漫画づくりを通して、自分のアイディアや考え を絵と言葉で表現する手法を学びました。

みんなに読んでもらう作品として仕上げることを体験することで、自分のイメージや思いを伝える絵や言葉の展開・表現の難しさと、1つの作品が出来たときの達成感を味わいました。

【7/27】オリジナルキャラクターを考えよう

-【8/8】ネームを描こう

【8/18】漫画原稿制作へ

【8/22】漫画原稿の仕上げ

※みんなが描いた漫画は1つの作品集にまとめてプレゼントしました。



完成した作品集



漫画の描き方指導



原稿の制作

子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業

子どもたちが変化の時代を「生き抜く力」(失敗を恐れず、目標をもって進む力・諦めない力・やりきる力等)を育成するとともに、子どもたちの将来のキャリアの選択肢を増やし、学ぶ意欲を高めるため、起業家教育ワークショップ「みらいの起業家マインド育成塾」を初開催しました。

起業家教育とは…「起業家精神」(チャレンジ精神、創造性、探究心など)や、「起業家資質・能力」(情報収集・分析力、 判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション能力など)を有する人材を育成する教育

みらいの起業家マインド育成塾

(公社)日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会と共同で主催し、小学6年生、中学1・2年生を対象に7/24(日)に富山県民会館で開催しました。

第1部 みんなの経済カードゲーム

カードゲームを使って、助け合いながらより良い暮らしを作り上げていく経済活動を疑似体験しました。

グループの仲間と協力しながら、「資源」「技術」「生産物」のカードを組み合わせて、経済をまわすことの基礎・基本を学びました。





グループの仲間とカードゲームに取り組む



適性検査



加藤さんの講話

第2部 自分の長所を見つけよう

適性検査を実施し、まだ気付いていない自分の長所 や可能性を見つけます。検査で気付くことができた自 分の長所に驚く姿が見られました。

また、特別講師の加藤喜昭さんに新しい時代を切り 拓くアイディアを形にする過程をお話いただきました。

第3部 みらいをつくるヒントをつかもう

ゲスト講師 前田大介さんをお招きし、「明日からみんなにもできる起業」をテーマに、自分自身のウェルビーイングをどのように実現させていくか、そのヒントをお話いただきました。

その後、活動のまとめとして「どんな富山の街をつくっていき たいか」をテーマにディスカッションを行いました。



前田さんの講話



グループセッション

ひとづくり財団からのお知らせ



富山県教育記念館では大会議室1室(収容人数:60名程度)、 会議室3室(収容人数各20名程度)の計4室を貸出しています。 会議や講演会、試験会場等にご利用いただけます。

ご利用のお問合せ・お申し込みは

当館1階受付 TEL: 076-433-2770 まで※受付時間 祝日を除く8時30分から17時まで
ご利用料金、空き状況などは、下記から確認できます。
https://www.t-hito.or.jp/reserve/



こんな事業もしています

「高校生とことん科学セミナー」開催事業

県内の高校生に科学への関心をさらに深め、将来の進路 や人生を考えてもらうことを目的に、各分野で活躍中の研 究者を講師に招き、例年3月頃に「講義」や「実習」を行っ ています。

テーマ 「影からみつめる富山の"光" ~ツーリズムで富山を再発見しよう~」

講師 鈴木 晃志郎 氏

(富山大学学術研究部人文科学系 准教授) ※開催当時



※内容および写真は令和3年度のものです。

高等教育振興事業

県内の高等教育機関(大学・短大等)が実施する教 育研究活動及び地域連携活動等に対する支援(助成金 の交付)を通じて、本県の学術、文化及び産業の発展 を図りました。

> 令和4年度の助成見込み 34# 12.462FP

- 学会等の開催に対する助成事業
- 公開講座、シンポジウム等の開催に対する助成事業
- 研究助成事業
- 大学連携支援事業
- 私立大学振興事業

令和4年度賛助会員の紹介(令和4(2022)年12月31日現在)

ご支援いただき、ありがとうございます。

(企業・団体)22企業・団体

- 朝日建設株式会社
- ●株式会社インテック
- 大高建設株式会社
- ●紙ぷらす株式会社
- ●佐藤丁業株式会社北陸支店
- JFEホールディングス株式会社 ●株式会社富山第一銀行
- ●ダイチ株式会社
- タカノ建設株式会社

- 武内プレス工業株式会社
- ●トナミ運輸株式会社
- ■富山エフエム放送株式会社
- ●富山経済同友会
- ●富山信用金庫
- ●日本海ガス絆ホールディングス株式会社
- 阪神化成工業株式会社

(敬称略、五十音順)

- 株式会社北陸銀行
- 北陸コカ・コーラボトリング株式会社
- 北陸電気工事株式会社
- ●北陸電力株式会社
- ●株式会社牧田組
- YKK株式会社黒部事業所

(個人)26名

富山県ひとづくり財団では、賛助会員として、富山県の未来を拓く創造性豊かな子どもの育成にご協力いただける企業、 団体、個人の方を随時募集しております。詳しくは、富山県ひとづくり財団までお尋ねください。

特

典》機関紙の定期配布(年1回)、イベント等の開催案内、各種報告書等の配布

年 会 費 法人会員 年一口 30,000円

個人会員 年一口 3,000円

令和5(2023)年度

富山県ひとづくり財団事業予定

□ 人づくりに関する調査研究及び普及活動

● とやまファン倶楽部事業

富山県をこよなく愛し、全国から富山県を応援する方々のヒューマンネットワークづくりを推進します。

② 退職教員等活用推進事業

退職教員や民間企業の人材を登録し、学校現場へ紹介することにより、学校における人材確保と優れた指導実践の継承を図ります。

2 元気で創造性豊かな子どもの育成事業

- ②「きらめき未来塾」事業

思考道場 (算数)、お笑い道場 (落語)、右脳活用道場 (漫画)

「ロボットづくり教室」開催事業(アイデアロボット展関連企画事業)

子どもたちにものづくりのおもしろさや楽しさを味わってもらうため、「アイデアロボット展」の開催期間中に「ロボットづくり教室」を開催します。

● 「高校生とことん科学セミナー」開催事業

科学に興味のある高校 1·2年生を対象に、最先端の科学に触れ、科学者等とひざを交えて語り合う交流の場を持ち、将来の自分の進路について考えてもらいます。

引 子どもたちの生きる力を育む起業家教育推進事業

小学6年生および中学1·2年生を対象に起業家教育ワークショップ「みらいの起業家マインド育成塾」 を開催し、県内における子どもの起業家教育の普及を図ります。

🛭 元気な地域づくり事業

「学ぼう!ふるさと未来」支援事業

ふるさとに学び、ふるさととともに生きる地域活動を実践している小学校を支援します。

4 優れた人材育成支援事業

「とやま賞」贈呈事業

⑤ 教育の歴史文化に関する文献の収集・保管・展示

● 恒例展の開催 ※耐震改修工事のため、4~9月は展示を行いません

富山県教育記念館1階展示スケジュール

【恒例展】7/21 ~ 8/22「さんすうワールド展」(ミニ展示)

10/1~10/7「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」

10/18 ~ 11/12 「児童・生徒によるものづくり展」

11/18~12/3「富山県造形教育作品展」

12/9~1/7「アイデアロボット展」

1/19 ~ 2/4「富山県中学校美術展」

2/9~3/10「子どもの目、自然不思議発見写真展」

2 教育資料収集

富山県の教育の歴史や文化に関する文献や資料の収集及び整理·研究を行い、各種教育展示等で利用します。

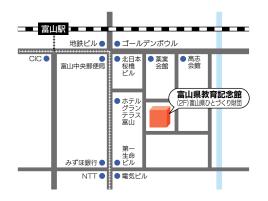
6 高等教育振興事業

県内の高等教育機関が実施する教育研究活動及び地域連携活動等に対して支援します。

7 教育記念館管理運営事業

学校教育関係団体が集う富山県教育記念館の管理運営を行います。





公益財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階 TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001

Mail toyama@t-hito.or.jp

HP https://www.t-hito.or.jp/zaidan/
Twitter https://twitter.com/t_hitozukuri





HP

令和5(2023)年3月発行